

共用品推進機構だより 2016年01月08日(36)

## 目次

### (167) 共用品推進機構関連記事

▽「日本リウマチ友の会 共用品と当事者団体／星川安之」

▽「本日(1/8・金)、ワールドビジネスサテライトで  
共用品市場規模紹介(予定)」

### (168) 各種催しとお知らせ

▽「ふじのくにユニバーサルデザイン実践講座

『静岡発！食のユニバーサルデザイン』参加者募集のお知らせ」

### (169) 製品関連記事

▽「らくに注げる軽量モデル／ドリテック」

▽「小型でとじる能力高く／マックス」

▽「車椅子でアウトドア／エートウゼット」

### (170) 行政関連記事

▽「NTT と組んで見守りサービス／福岡市」

### (171) その他、各種関連記事

▽「口の動きで文字入力 候補示し障害者支援／九州工業大」

▽「JA・イチゴ農家と福祉施設が連携 出荷箱組み立てで雇用」

▽「ネットの利用高齢者も簡単に／NTT 東日本」

▽「歩行支援の器具開発 引きこもり防止狙う  
／富山県立大学、富山福祉短期大学」

### (172) 新刊紹介

▽『インクルーシブ教育システム時代のことばの指導

コミュニケーション能力の向上を目指して』

▽『女性の ADHD イラスト版』

▽『図解やさしくわかる言語聴覚障害』

---

(167) 共用品推進機構関連記事

▼「日本リウマチ友の会 共用品と当事者団体／星川安之」

今年創立 55 周年を迎えた公益社団法人日本リウマチ友の会をご紹介します。日本リウマチ友の会は、国立伊東温泉病院に全国から治療に来ていたリウマチ患者により、医師の指導のもと、患者の福祉の向上を目的に設立されました。

友の会の会長である長谷川三枝子さんは、発足当時のことを次のように話されました。「会の発足当時、リウマチは寄りの病気という社会の認識。理解してもらえない中で、機能障害が進行するうちに寝たきりになる患者が少なくない時代が続きました」。

友の会は、そのような社会の見識を変える必要があると考え、お互いの病気の状況について知るところから始めました。それが、5 年ごとに継続して発行している「リウマチ白書」。この一冊の中に、患者が現在置かれている状況が、多くのデータとともに示されています。

長谷川会長が、大切にしていることを教えてくださいました。それは、「自分たちだけの希望や要望を伝えるだけではなく、医療従事者、介護従事者の人たちが、リウマチ患者に望むこともアンケートをとって集計し、記載している」ということです。

モノやコトを作っている多くの人達に是非、読んでいただきたい必読の白書です。

(福祉介護テクノプラス 2015 年 10 月号より抜粋)

▼「本日 (1/8・金)、ワールドビジネスサテライトで  
共用品市場規模紹介(予定)」

本日、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト (WBS)」で、共用品の市場規模調査が紹介される予定です。皆様、是非ご覧ください。

※都合により、番組の内容が変更されることもあります。

番組名：ワールドビジネスサテライト（WBS）

<http://www.tv-tokyo.co.jp/wbs/>

日時：1月8日（金）23：20～

放送局：テレビ東京

---

（168）各種催しとお知らせ

▼「ふじのくにユニバーサルデザイン実践講座

『静岡発！食のユニバーサルデザイン』参加者募集のお知らせ」

- ・ 場所：静岡県庁別館 20 階第一会議室 A（静岡市葵区追手町 9-6）
- ・ 日時：平成 28 年 2 月 5 日（金）13：30～16：00
- ・ 募集定員：先着 70 名（定員に達し次第、募集を締め切り）
- ・ 参加費：無料、要事前申込
- ・ 内容

基調講演「食べる楽しみをすべての人に」

講師：日本介護食品協議会 事務局長 藤崎 享 氏

日本介護食品協議会では、介護食品の食べやすさ、使いやすさなどについて統一規格を制定し、食品のパッケージに固さや粘度の区分を表示しています。

おいしい、かんたん、食べやすい！ユニバーサルデザインフードとは？

事例発表「静岡発！食のユニバーサルデザイン」

コーディネーター：静岡文化芸術大学准教授 小浜 朋子 氏

県内で食のユニバーサルデザインに取り組む企業の方々をゲストに、それぞれの取り組みについて紹介していただきます。

事例発表 株式会社 岡根谷（富士市）

有限会社 魚藤（掛川市）

株式会社 食楽工房（浜松市）

- ・ 参加申込方法

参加者の氏名、会社団体名、連絡先を下記までお知らせください。

- ・ 申し込み・問合わせ先

静岡県くらし・環境部 県民生活課協働推進班 担当：天野

TEL：054-221-3153 FAX：054-221-2642

メールアドレス : shohi@pref. shizuoka. lg. jp

---

## (169) 製品関連記事

### ▼「らくに注げる軽量モデル／ドリテック」

食卓に合う角型デザインのケトル「電気ケトル 1.2 リットル」。重さ 567 グラムの軽量モデルで、子供でもらくに注ぐことができる。湯が沸いたら自動で電源が切れるので安心。奥まで手が入る大きな給水口で、手入れも簡単。給電スタンドから分離できる本体はコードレスで持ち運びに便利。ごみの侵入を防ぐフィルター付き。最大容量は 1.2 リットル。

(日経MJ 1月6日13面より抜粋)

### ▼「小型でとじる能力高く／マックス」

ホチキス「Vaimo11 POLYGO (バイモイレブン ポリゴ)」。片手で 40 枚までの書類がとじられるシリーズに、小さい手に収まる小型・軽量タイプを追加。針の装填数を通常の半分となる 50 本まで減らすことで実現している。同シリーズの専用針は細く、紙の抵抗が少なくなるため軽い力で留めたり外したりできるという。

(日経MJ 1月8日12面より抜粋)

### ▼「車椅子でアウトドア／エートウゼット」

キャンピングカー製造・販売のエートウゼットはバリアフリー対応のキャンピングカーを発売した。電動リフト付きで車椅子で乗り降りしやすい。車椅子でアウトドアを楽しみたい高齢者が今後、増えるとみて開発した。バリアフリー対応のキャンピングカーは珍しい。

室内は幅 180cm、高さが 185cm で、車椅子を 2 台乗せられるようにする。車両の後方に電動リフトがついており、介助者が 1 人でも楽に乗り降りできる。

室内に車椅子を固定する装置を備えており、固定すれば車椅子に座った状態で走行できる。障害の内容に応じて車内の設備やレイアウトを変えられるようにする。

(日経MJ 1月8日9面より抜粋)

---

(170) 行政関連記事

▼「NTT と組んで見守りサービス／福岡市」

福岡市は NTT グループと共同で IT (情報技術) を使った地域住民による高齢者見守り支援サービスを始めると発表した。

城南区の高齢者 50~100 人を対象にスマートフォン (スマホ) や緊急ブザーなどの端末を配布し、定期的に安否情報を発信してもらう。「見守る側」である地域住民はスマホなどで高齢者が発信した安否情報や、独居世帯を訪問した履歴などを共有する。実施期間は 16 年 3 月まで。

高齢化の進展により、今後「見守られる側」の高齢者が増えるのを見据え、IT を活用することで「見守る側」である地域住民の負担軽減を目指す。持続可能な見守り体制の構築に向け、サービスの効果などを検証する。

(日経MJ 1 月 8 日 9 面より抜粋)

---

(171) その他、各種関連記事

▼「口の動きで文字入力 候補示し障害者支援／九州工業大」

九州工業大学の齊藤剛史准教授らは、話している人の口の形を読み取ることで、手足に障害がある人が容易にパソコンなどに文字を入力できるシステムを開発した。話すことができる人なら、ボタンだけを使う従来のシステムより簡単で、入力間違いも減らせるという。

システムは、利用者が発話するときの口元をカメラで撮影し、その形から母音のつながりを推定。それに合った単語を入力候補として示す。同じ母音でも口の形には個人差があるが、あらかじめ利用者の口の形を学習することで精度を向上した。母音それぞれをカメラに向かって 10 回程度発話してもらい、そのときの口の形を学習する。顔にマヒがあるなどで口が動きにくくても、その人の特徴を学習して認識できる。

今後は、旅行や買い物など用途に応じた候補を出せるように辞書を変更できる機能を搭載する。障害のある人に使ってもらい、実用システムを目指す。

(日経産業新聞 1月6日8面より抜粋)

▼「JA・イチゴ農家と福祉施設が連携 出荷箱組み立てで雇用」

栃木県真岡市のJA・農家と福祉分野の関係団体が、ユニバーサル農業の推進を目指し、「真岡地区ユニバーサル農業推進協議会」を設立し、今月から福祉施設入所者の作業が始まった。特産のイチゴ出荷用の箱折り作業受委託を通じて、農作業の効率化、雇用を確保する。3月末まで続く。

(日本農業新聞 1月7日5面より抜粋)

▼「ネットの利用高齢者も簡単に／NTT 東日本」

NTT 東日本千葉事業部は千葉県老人クラブ連合会などと協力して、高齢者のインターネット利用をやさしくするための実験をする。ID やパスワードを簡単に入力できるタブレット（多機能携帯端末）を貸し出し、使い勝手を検証する。利便性と安全性を両立できるサービスを開発し、高齢者のネット利用を促す考えだ。

2015年12月からタブレットの貸し出しを順次はじめた。約100人に2月下旬まで利用してもらおう。

タブレットは近距離無線通信技術に対応し、ID やパスワードを記録した専用ICカードをかざすと、会員制サイトにログインできる。ホーム画面は簡素にして、視覚的に機能が判別できるアイコンを配置する。

(日経MJ 1月8日9面より抜粋)

▼「歩行支援の器具開発 引きこもり防止狙う

／富山県立大学、富山福祉短期大学」

富山県の大学が相次ぎ、高齢者の歩行を助ける器具を開発している。富山県立大学と富山福祉短期大学は自転車のようにサドルにまたがり、足で床を蹴って進む歩行器を試作、2016年中の製品化を目指す。

富山大学は安定性を重視した街歩き用歩行補助車を開発した。高齢化が進み介護予防の重要性が増す中、高齢者の引きこもり防止を狙う。

県立大と福祉短大は試作品・金型製作の菊池製作所と共同開発を進めている。同県射水市の介護施設「大江苑」の協力を得て、試作品の性能評価を進める。歩行器の4カ所に取り付けたセンサーで利用者が体のバランスを取れているかを解析する。

この歩行器は自分の足を動かして進むことから、足の筋力退化を防いだり強くしたりする効果が期待されるという。スーパーや公共施設など主に屋内での利用を想定する。

(日経MJ 1月8日9面より抜粋)

---

## (172) 新刊紹介

### ▼『インクルーシブ教育システム時代のことばの指導 コミュニケーション能力の向上を目指して』

子どもの言語の能力の発達を目的に、特別支援学校などで取り組むための、ことばの指導の理論や実践事例を紹介。昨今の脳科学やインクルーシブ教育の視点も取り入れた、コミュニケーション能力の向上に役立つ指導書。

編・著：全国特別支援学校知的障害教育校長会

監修：丹野哲也（たんの・てつや）

発行：学研プラス

本体価格：2100円（税別）

ISBN：978-4-05-406221-4

### ▼『女性のADHD イラスト版』

片付けられないだけじゃない。気配りができず同性に嫌われる、時間がないのに用事をつめこんでしまう…。ADHDの女性に特有の悩みと対応法をイラストを交えて徹底解説する。

監修：宮尾益知（みやお・ますとも）

発行：講談社

本体価格：1300円（税別）

ISBN：978-4-06-259799-9

### ▼『図解やさしくわかる言語聴覚障害』

言語聴覚障害を通して人間のすばらしさを伝えることを目的に編まれた入門書。言語聴覚障害、および高次脳機能障害や摂食嚥下障害などその周辺障害の一つひとつを、図やイラストを盛り込んで丁寧にわかりやすく解説する。

編著：小嶋知幸（こじま・ともゆき）

発行：ナツメ社

本体価格：2000 円（税別）

ISBN：978-4-8163-5944-6

---

（編集後記）

新年おめでとうございます。

例年よりもあたたかいお正月を迎えました。多くの事業の締めが待ち構える

27 年度末はもうすぐで、今月も非常に多くの委員会が開催されます。

年初から忙しい状況となっておりますが、事務局のメンバー全員で頑張っていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。（松岡 光一）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>